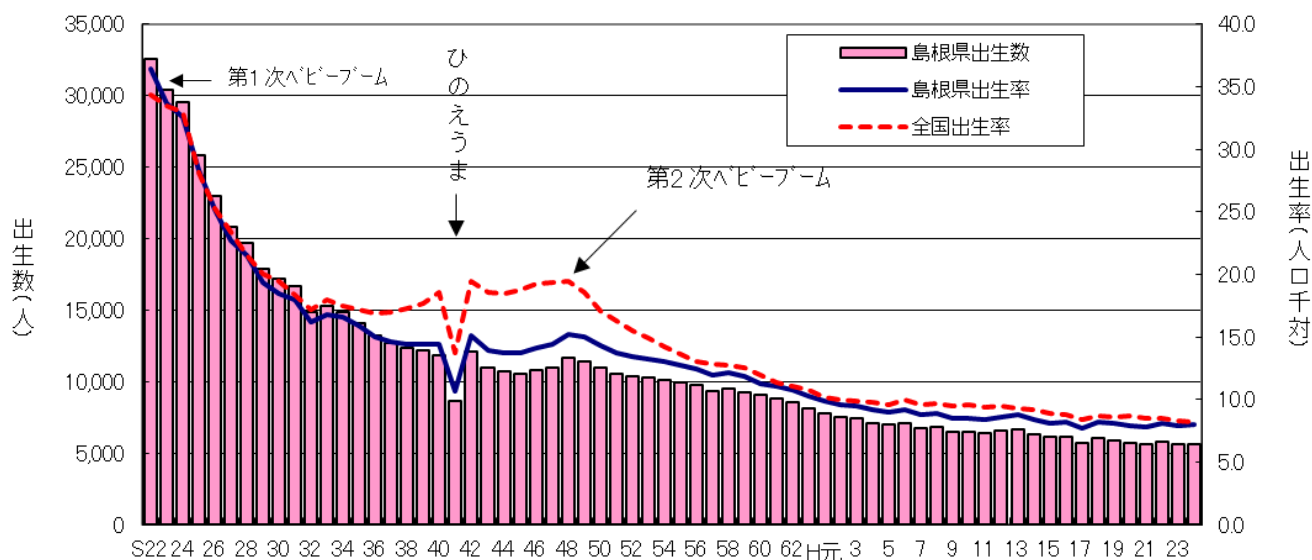


2 出生

(1) 出生数・出生率

平成 24 年の出生数は 5,585 人で、前年の 5,582 人から 3 人増加し、出生（人口千対）は 8.0（全国第 28 位）で、前年の 7.9 を 0.1 上回った。出生数、出生率ともに昭和 46～49 年の第 2 次ベビーブーム以降、ゆるやかな減少傾向が続いている（図 1）。

図 1 出生数・出生率（人口千対）の年次推移



出生数を母の年齢(5歳階級)別にみると、20～24歳、30～34歳では前年より減少したものの、25～29歳、35～39歳、40～44歳では増加した(表 2)。

表 2 母の年齢（5歳階級）別にみた出生数

母の年齢	出生数				対前年増減		
	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	22年－21年	23年－22年	24年－23年
総数	5,601	5,756	5,582	5,585	155	△ 174	3
～14歳	-	-	1	-	-	1	△ 1
15～19	87	71	62	58	△ 16	△ 9	△ 4
20～24	687	691	654	600	4	△ 37	△ 54
25～29	1,769	1,795	1,672	1,687	26	△ 123	15
30～34	1,973	1,986	1,958	1,906	13	△ 28	△ 52
35～39	968	1,049	1,075	1,124	81	26	49
40～44	112	162	160	208	50	△ 2	48
45～49	5	2	-	2	△ 3	△ 2	2
50歳以上	-	-	-	-	-	-	-

出生順位別にみると、平成24年は第3子以上が前年より減少し、第2子以下で増加した（表3）。

表3 出生順位別にみた出生数の年次推移

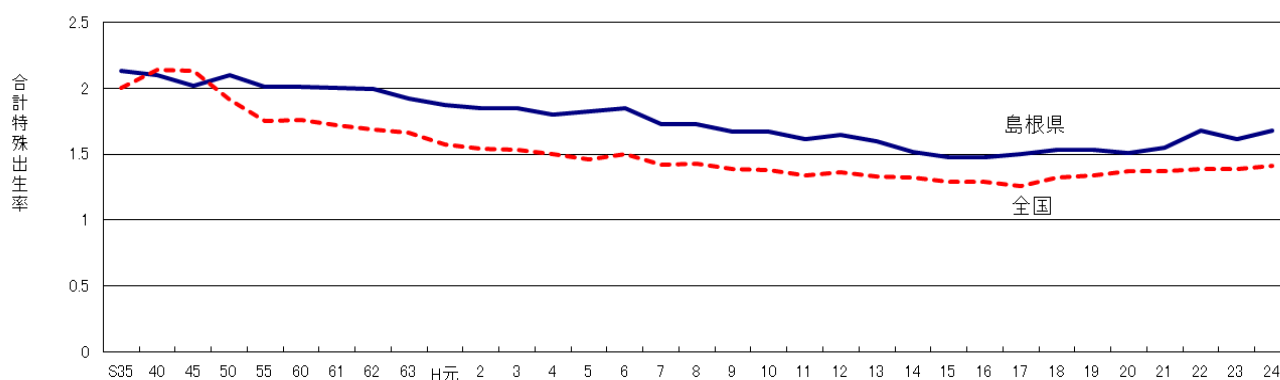
出生順位	出生数				対前年増減		
	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	22年－21年	23年－22年	24年－23年
総数	5,601	5,756	5,582	5,585	155	△ 174	3
第1子	2,373	2,408	2,376	2,379	35	△ 32	3
第2子	2,095	2,139	1,938	1,978	44	△ 201	40
第3子以上	1,133	1,209	1,268	1,228	76	59	△ 40

(2) 合計特殊出生率

平成24年の合計特殊出生率は1.68であった。全国と比較すると、昭和50年以降一貫して島根県が上回っており、平成24年の順位は全国第2位である（図2）。

なお、合計特殊出生率の算定の基礎となる年齢5歳階級別女子人口については、平成22年などの国勢調査年は日本人人口を、その他の年は総務省推計人口（総人口）を使用しているため、数値の比較においては注意を要する。

図2 合計特殊出生率の年次推移



年齢（5歳階級）別合計特殊出生率の昭和45年以降の推移を見ると、年により多少の増減があるものの、概ね20歳代では低下傾向、30歳代では上昇傾向にある。平成24年は20～24歳で低下し、25～44歳の各階級で上昇した。（図3）。

図3 合計特殊出生率の年次推移【年齢階級別内訳】

